

平成 30 年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練に参加しました (2018/8/31)

テーマ：帰宅困難者、訓練

場所：JR 仙台駅、東北福祉大学東口キャンパス、AER、住友生命仙台中央ビル（宮城県仙台市青葉区）

2018 年 8 月 31 日(金)午前、仙台駅周辺において、仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会主催の「平成 30 年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練」が実施され、当研究所から丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）、寅屋敷哲也助教（同部門）、金英淑客員研究員（同部門）が参加しました（丸谷と寅屋敷は昨年度に引き続き参加）。この訓練は、2014 年に第 1 回目を実施以降、毎年継続して実施されています。今回は、同協議会、協定締結事業者、仙台市、仙台駅周辺事業者、周辺大学の学生ボランティア等が参加し、特に災害時要援護者を多く想定して行われました。

当日 9 時に受付に集まった訓練参加者は、JR 仙台駅の西口側と東口側の二手に分かれ、仙台駅構内（2 階）に滞在中に地震が発生したと想定し、しゃがんで頭を守る身体保護の行動を行い、次に、西口、東口それぞれの緊急退避場所に分かれて移動し、集まりました。なお、降雨のため、通常の屋根のない広場スペースに代えて駅構内等の屋根のある場所が緊急退避場所とされました。帰宅困難者役は一時滞在場所の受入れ体制が整うまで待機し、その間、現地対策本部からの関係情報が、メガホンでの呼びかけ、ホワイトボードへの記入及び twitter により伝達されました。外国人への情報提供は、国際交流関連団体がボランティア参加していたほか、帰宅困難者役の中から外国語ができる方を探し、多言語で記載された案内資料を活用して行われました。また、相当距離を徒歩帰宅する役も設定され、徒歩帰宅支援ステーションへ誘導され、そこで Wi-Fi 災害モード通信試行などが行われました。

帰宅困難者が入る一時滞在施設として、今回は、西口では AER、住友生命仙台中央ビル(SS30)及び仙台駅 2 階東西自由通路の 3 箇所、東口では東北福祉大学東口キャンパスが準備されました。車いす役や高齢者役、乳児を抱えた母親役、妊婦役等の要支援者を多く設定され、周りにいる帰宅困難者が 4 名程度、移動の際に支えて移動するよう要請されました。

当研究所の参加者 3 名はそれぞれ、仙台駅 2 階東西自由通路、SS30、東北福祉大学に向かい、同施設へ到着後、一時滞在場所に誘導されました。受入れ場所には床にブルーシートが敷かれ、帰宅困難者が座って休み、すぐに水、食料、ブランケットの備蓄品が配布されました。交通機関の運行状況等の情報がホワイトボードに記入され、アナウンスもされました。最後に、その場で実施された訓練参加者向けの AED の使い方及び車いす使用者の支援方法の講習を受け、アンケートを記入・提出して訓練は 1 時間半で終了となりました。



地震発生（駅構内）



緊急退避場所での情報発信
 （雨のため仙台駅構内で実施）



緊急退避場所での
 外国人への情報提供

文責：寅屋敷哲也、丸谷浩明（人間・社会対応研究部門）

写真：丸谷浩明、寅屋敷哲也、金英淑

（次頁へつづく）



一時滞在施設までの移動
(東口)



一時滞在施設内での待機
(仙台駅東西自由通路)



一時滞在施設内での待機
(SS30)



一時滞在施設内での要支援者
専用の待機場所 (東北福祉大)



救急救命講習



車いす使用者の支援方法講習